砂原議員（広志会）

平成 31 年２月 13 日
教 育 長 答 弁 実 録
（ 教 育 委 員 会 ）

（問）学びの変革について

学びの変革を始めて４年間，全国学力・学習状況調査の平均正答率におけるトップ県とのポイント差は縮小するどころか拡大していることについて，どのように考え，今後，どうすべきと考えているのか，併せて教育長に伺う。また，学びの変革によって，児童生徒に求める姿とは一体何なのか，また，その実現について何をもって評価するのか，併せて伺う。

（答）

広島版「学びの変革」アクション・プランでは，これまで取り組んできた児童生徒一人一人の「基礎・基本」の確実な定着を目指した教育活動に加え，「知識を活用し，協働して新たな価値を生み出せるか」を重視し，「これからの社会で活躍していくために必要な資質・能力の育成を目指した主体的な学び」を促す教育活動に取り組んでおります。

児童生徒の身に付ける資質・能力には，「意欲・態度」，「価値観・倫理観」など，数値で測ることが困難なものも含まれておりますが，授業改善が進めば，全国学力・学習状況調査の平均正答率におけるトップ県とのポイント差が縮小すると考え，成果目標の一つとして，設定しているところでございます。

全国学力・学習状況調査の平均正答率におけるトップ県とのポイント差を平成２７年度と平成３０年度で比較すると，小学校が ４．３から３．０へ，１．３ポイント縮小しているのに対して，中学校は４．３から４．７へ，０．４ポイント広がっております。

平成２７年度から，「学びの変革」パイロット校を指定し，「課題発見・解決学習」の単元開発と実践を行うとともに，指定校以外への研究成果の普及を段階的に行ってまいりました。

そのため，学校によって授業改善の取組の進捗状況に差があることなどから，現時点では，必ずしも十分な成果が表れていないものと捉えております。

今後，全ての学校で授業研究に取り組むなどして，主体的な学びを促す「課題発見・解決学習」の実践・改善を行い，「学びの変革」全県展開の取組を一層推進してまいります。

また，広島版「学びの変革」アクション・プランでは，児童生徒に，これ

からの社会で活躍するために必要な資質・能力として，自ら新しい価値を作り出す力，多様な他者と協働・協調できる力，生涯にわたって学び続ける力を育成することを目指しております。

　児童生徒の資質・能力の変容を適切に評価する方法につきましては，これまでの成果目標に加え，今年度，各学校において，資質・能力の評価規準や方法などの研究を進めており，これらをもとに，事業の検証を行いながら着実に「学びの変革」アクション・プランを推進してまいります。